

家族支援・家族指導について ～家族教育

第7回在宅緩和ケアに関する病診連携勉強会

斎藤内科クリニック 斎藤忠雄

平成21年12月 4日



家族教育＝家族ケア（１）

病院の先生方にはできない、在宅医の本領を発揮するケア

- 家族の意志決定を尊重する
- 家族の誰にケアが必要か的確に認識する

主介護者の状態



介護全体に影響



介護力を高める



家族教育＝家族ケア（２）

- 家族の生活（ライフスタイル）を大切にすること

それまでの人生という歴史の中で作られてきた、その家、その人なりのライフスタイルがある。



その家族なりのケアができるように支援

（患者さんとその家族に**寄り添うこと**）



終末期にある患者さんの家族が抱える問題

- ①患者さんの病気・死に対する悲しみ～予期的悲嘆
- ②変化する病状や看取りに対する不安～
痛みなどのつらい症状が起こらないか？起こったらどう対処？
- ③意志決定の困難さ～
病名・病状・予後について伝えるか？ 家族が決定
- ④介護する負担～
肉体的・精神的ストレスー最低限の必要な介護知識と技術の習得



終末期にある患者さんの家族が抱える問題

⑤自分たちの生活への影響～

介護のために今までの生活が変化する
ことを余儀なくされる

患者さんのために
してあげられるという
喜び

生活が変わる
ストレス



終末期にある患者さんの家族が抱える問題

⑥家族関係の変化～

遠方の親せきが急に口を出す → 人間関係の悪
化



付き合いが希薄だったり、疎ましかった人との関係が死を通して改善することもある



家族ケアで大切なこと～ スピリチュアルケア

- ケアを提供する側の価値観の押しつけ
- 家族の持っている力を引き出し、家族の力で看取れるように育てる～

死の教育



緩和ケアとスピリチュアルケア～ 大下大圓氏・飛騨高山千光寺

スピリチュアルケア

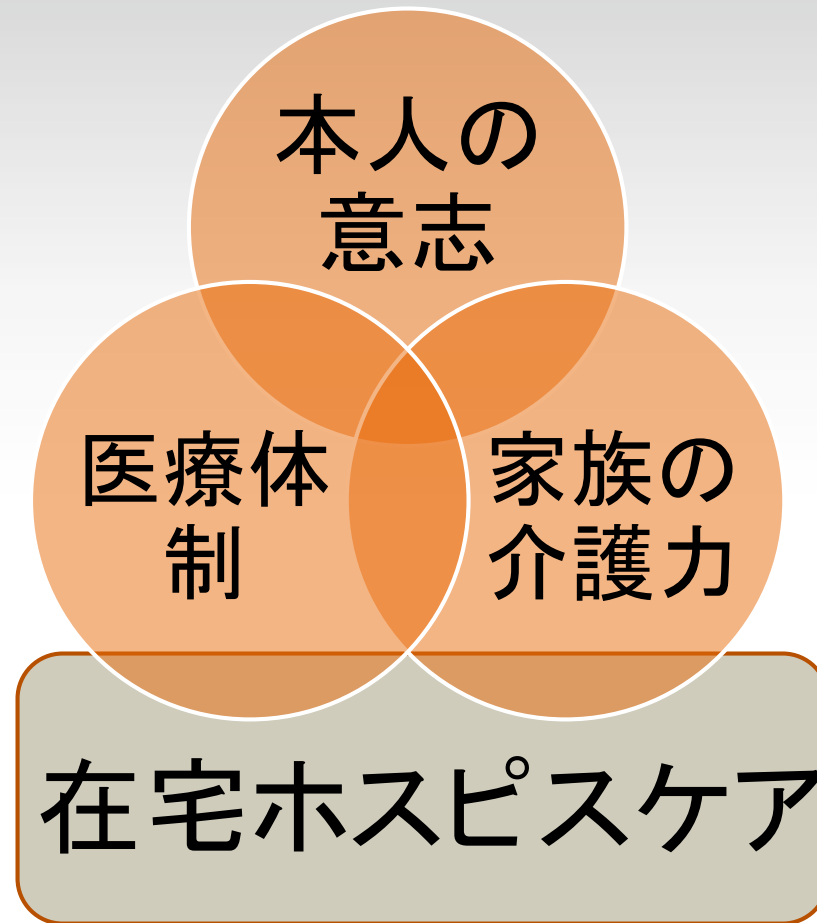
肉体性

心理性

社会性・家族性

平成21年11月27日

在宅ホスピスケア



①導入期～1～2w

- ・ 不安を感じる時期
- ・ ケアの方方向性をみいだす時期

不安を軽減し患者さん、家族との信頼関係を作る



家族の関係性（これまでのライフスタイル）や今後のことについての考え方を知る



看取りのために解決しておかなければならない問題
今まで通りの生活を維持できるようにする



②安定期～2～3w

- ・在宅生活に慣れ、病状も（緩和ケアにより）安定している時期

看取りの準備をする

現在の病状、今後起こりうる病状への対応についての説明



看取りのための具体的な方法を伝える



患者さん・家族の今できること、したいことを支援する



③終末期～ 亡くなる前の10日～1週間

- 病態が不安定になる時期

安らかで満足した看取りのための支援



死の教育



④臨死期

- 数時間以内と判断できる時期

家族が心安らかに看取れるように支援する



⑤死別期

- ・ 患者さんが亡くなり、家族対象としたケアを行う時期



本人、家族とも最善を尽くしたことを伝え、介護してきた家族を労う

喪失・予期的悲嘆・喪の過程・グリーフケア
家族ケア＝スピリチュアルケア

症例（竹〇〇松さん）昭和3年10月6日生れ（80歳）

- 残胃癌術後、腹膜再発、横行結腸皮膚瘻

皮膚腸瘻 → ストーマ処置

- 退院時共同カンファレンス



妻、長男、長女、担当ケアマネージャー

本人は体力を回復し元気になると思っている（本人へは告知しない）

- 退院

ぎこちない対応 → クリニックケアチーム
に対しての偏見

（ケアマネージャーより妻へ、斎藤一座では看取れるはずがないと）

症例

- 退院直後の高熱

抗生物質の投与、CVポート管理

毎日の訪問（訪問看護師/訪問薬剤師/医師）

- ストーマの管理、CVポート管理、ポータブルトイレへの誘導、尿量チェック

○松さんとお母さんの出会い

結婚してからの近所付き合い

息子夫婦の出産を契機に自主退職

孫たちへの愛情～自転車で園芸センター

へ何度も訪問、思い出～大好きなじいちゃん



症例

● 臨死期その 1

ストーマから排出されるはずの便が弛緩した肛門から排出 → 手足の著明なチアノーゼ



家族全員への死の教育

努力様呼吸となると、みんなで歌を歌う



午前2時、息を引き取ろうとした時、お孫さんたちがベッドに馬乗りになり、「おじいちゃん～」と何度も体をゆすったところ復活（家族で涙を流しながら爆笑）



症例

● 臨死期その2

- 火曜日から始まった、ベッドを囲んでの看取りは日曜夕方まで続いた
- 午後6時半、サザエさんの歌が始まると娘と孫で大声で合唱～微笑んでいたじいちゃん



午後8時すぎ、急患センター（当番医）へ連絡～永眠

お通夜（全員で）、49日（訪問看護師、薬剤師）

みとりびとチームのケアとは、患者さんとその家族に寄り添い、その瞬間を共有することができるようにすること

みとりびとチーム

